



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

Vol. 60

No. 17

第2830例会
2022年4月7日号

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2580地区

東京江東ロータリークラブ

2020～2021年度 テーマ

Serve to Change Lives

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
RI会長 ジュカール・メー 地区ガバナー 若林英博

誓願成就

～願いはかなえよう～
クラブ会長 小嶋映治

今日の卓話

東京江東 RC・東京ベイ RC
合同夜間例会
ロイヤルパークホテル

次回例会案内

全日本教職員連盟 委員長

前田晴雄様

全日本教職員連盟

城文(じょうあや)様

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp

http://www.koto-rotary.jp

例会報告

3/15 訂正出席率 85%
3/29 会員数 21名中 14名
出席率 66.67%

ゲスト

NPO 東京養育家庭の会 副理事長

東京養育家庭の会 川の手支部

東京みなとロータリー 2021-22 度財団委員長

松岡 秀紀様

株式会社 東京ユナイテッドバスケットボールクラブ

【卓話者】代表 家本 賢太郎様

代表 石元 龍太郎様

庄司 顕人様

米山奨学生 楊イクシュウさん

プルデンシャル生命保険株式会社 大崎第五支社 第四

営業所 山本 晴生様



会長・幹事報告



- ・楊さん3月分奨学金授与【最終】
- ・関口カウンセラー感謝状授与
- ・本日 11:30 より事務局にて新人研修会が開催されました。
- ・4/7(木)鈴木地区委員が地区立法案検討委員会へ出席します。
- ・トンガ王国海底火山大規模噴火への支援金のお願ひ(資料配布)
- ・来週の例会は4/7(木)ベイさんとの合同夜間例会(於:ロイヤルパークホテル 20F)へ移動例会となります。

☆今週のワンポイントレッスン (No.17)

●国際奉仕

国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他の国の人々を助ける事を目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動からなるものである。(標準ロータリークラブ定款第6条 五大奉仕部門第四項) 社会奉仕の国際版であり、親睦の国際版であるともいえます。他国における衛生的な水の確保、識字率の向上、保健衛生の推進などが奉仕の重点項目です。国際大会は、各国のロータリアンが一堂に会する機会です。広報に役立ち、寄付を集める事ができ、参加者の親睦を図る事ができるという大きな効果があります。

ニコニコボックス



小嶋会長：東京ユナイテッドバスケットボールクラブ様、卓話楽しみにしております。

板倉幹事：久しぶりの食事ありの例会ですね。ゲストの方々をこの形式でお迎え出来て良かったです。

小野会長エレクト：東京ユナイテッド BC 家本様、本日はよろしくお願ひいたします。

大澤(栄)：東京ユナイテッド BC の皆さん、ようこそ！

大木君：東京ユナイテッドバスケットボールクラブ、卓話よろしくお願ひします。

伊藤(三)君：皆さん、春です。桜が満開で心が和みますね！

鈴木君：東京ユナイテッドの皆様おいでいただきありがとうございます。

伊藤(海)君：東京ユナイテッドバスケットボールクラブ様、本日は楽しみにしております。

大澤(秀)君：やっと普通の例会うれしいです。

堀君：今日もよろしくお願ひします。

熊川君：本日も宜しくお願ひ致します。

合計 37,000 円
累計 1,089,000 円



<委員会報告・その他>

鈴木委員：バギオ基金について

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分～13時30分
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737



専任しよう みんなの人生を豊かにするために



東京ユナイテッド BC 誕生と地域活性・連携



東京ユナイテッド BC 家本賢太郎様

私は、15歳の時に、名古屋で起業をしました。起業当初は、サーバのインフラ事業をおこなっておりました。それから25年経ち、業容はDX支援事業やモビリティ事業など拡大していますが、一貫して取り組んできたのは、「誰かの縁の下のか持ち」という存在であり続けることです。自分の名声や名誉のためではなく、社会の誰かが輝くため、そして誰かの仕事があまくいき、もっと活躍できるようになるため。そんなことを考えながら取り組んでいます。

このような各事業は、インターネットを使った仕組みづくりに注力したものです。それは「インターネットをより便利に使える」「インターネット自体の発展に貢献する」ことを推し進めるものでした。

しかし、今回の東京ユナイテッドバスケットボールクラブ（以下「TUBC」）は、今までより広い視野から、インターネットのみならず私たちが関わりを持たせていただく地域に対してどのように貢献できるか？という逆の発想から生まれたプロジェクトです。

そもそも、サーバのインフラ事業から始まった私が、なぜスポーツの仕事をしているのか。それは、インターネット業界で仕事をする中で、「スポーツ」は国や地域、言語を超えて人を熱狂させるコンテンツだと気づいたからです。

そこで、私は、現在のTUBC社長である石元と一緒に、「21世紀のスポーツ環境を創る」というミッションを掲げ、2010年にスポーツITソリューションを設立しました。

また、スポーツを多くの人の目に触れさせてくれるようになったテレビという存在が、逆に、野球やサッカーといった一部のスポーツだけに興味を集中させる結果になってしまいました。陸上を例にとると、日本陸上競技選手権大会の種目は30を超え、どれも1つずつ違った魅力のあるものばかりです。しかし、テレビでの放映時間はわずかで、スポットの当たらない種目が数多くあります。パラリンピックの放映時間もまだまだ短く、十分にその魅力を伝えられているとは言えません。

この点、現場での観戦の興奮を上回ることは難しくても、デジタルは徐々にそれを魅力ある形に近づけています。そこにイン

ターネットの可能性がります。我が家の子供は、プロ野球を見るとき、右手にインターネット配信、左手に野球アプリのデータ配信を持っています。こういうスポーツとの接点は、私が子供の頃とは大きく変わってきています。

私たちは、このスポーツITソリューションを通じて、多くの競技団体、リーグ、チームなどのDXをサポートしてきました。設立当初はアナログだったスポーツ業界に対して、少なからずデジタル化の面で貢献してきたという自負があります。今度は、その経験を「地域貢献」という場で活かしていきたいと思っています。

1年延期で無観客開催された東京オリパラ2020大会は、大会前から「レガシー」として何をどう残すかが考えられていました。私たち自身も何が残せるかを考えたとき、約2か月間に及ぶオリパラの期間が過ぎたらそれで終わりというのではなく、東京大会を契機に生まれたものを新たに形作り、地域の繋がりを新たに作るべきだと考え始めていました。

その地域の繋がりを作っていくことは、コロナ禍のこの2年間で失われかけている人々や、地域を支えてきた世代や新たにこの地域に住み始めた若い世代など、再び繋げることで地域を活性化することになります。

特に、バスケットボールは、あらゆる人がボール1つで始められる競技です。これには健常者だけでなく障がいを持つ人も楽しめるという魅力があります。私自身、起業当初は車いすでしたが、最初のリハビリとして取り組んだのが車いすバスケットであり、バスケットボールに助けられたという想いがあります。

とはいえ、TUBCのようにゼロからプロチームを作るというチャレンジは、冷静に考えればクレイジーなことでもあります。しかし、私たちの「MAKEUNITED（繋がりを作る）」というミッションがあるからこそ、この難しいチャレンジに向かっていくパワーがあります。

ただ、これを真に実現するためには私たちだけでは足りず、地域の皆様のご理解が必要だと感じています。そのため、チームがゼロから立ち上がるこの瞬間から皆さんにTUBCを見ていただき、いずれは「東京で、日本で、そして世界で誇れるチーム」に育てていきたいと考えています。

